

2018年度 多摩大学アジアダイナミズムプログラム 広東研修について

An Activity Report of the Educational Visit to Guangdong
in Tama University Asia Dynamism Program 2018

巴 特 尔* ○水盛 涼一* (○代表、執筆者)
Baatar Ryohichi MIZUMORI

Keywords : Asia's dynamism, China, Guangzhou, Shenzhen, Hong-Kong,
Chinese companies, University-wide Agreements

1. 研修の目的

本学は1989年の開学にあたり「国際性」「学際性」「実際性」という3種の基本理念を打ち出した。この理念は消滅することなく維持され、現在にまで生き続けている。今次われわれは学生とともに広東省広州市・深圳市そして香港特別行政区を訪問した。広東省は2018年の域内総生産が9兆7300億円¹、省レベル行政区での総生産中国第1位の座を長年にわたって保持している。そこでは協定校である広東財経大学（広州市）と交流を行ったほか、深圳市や香港で見聞を広めた。その途次には中国独特の生活習慣を肌で感じ、先進的な電子決済の一端を垣間見、そして協定校学生との交流を通して自己相対化と他者理解を行うことができた。今次の活動により、学生は必ずやアジアダイナミズムと向きあい国際性を増進できたことであろう。

2. 研修の背景

2015年4月3日、多摩大学と広東財経大学（Guangdong University of Finance and Economics）は学術交流と留学生の相互交換に関する包括的な協定を締結した。広東財経大学は広東省主管の公立大学であり、その前身は1983年5月にさかのぼる。現在は広東省の広州市海珠区（倉頭路21号）および仏山市三水区（東海旅游経済区学海路1号）に2ヶ所のキャンパスを擁し、教員1280名、学部生修士課程生合計2万7100名を越える大規模な大学へと成長した。

* 多摩大学経営情報学部 School of Management and Information Sciences, Tama University

¹ 『南方日報』2019年1月29日、駱驍驍「省十三届人大二次会議開幕」。

² 金美德・バートル・田中孝枝3教授の訪問を伝える「広東財経大学新聞網」2015年9月7日「日本多摩大学代表団訪問我校」(<http://news.gdufe.edu.cn/1066>)、久恒啓一・樋口裕一・バートル3教授の訪問を伝える同2016年9月23日付「日本多摩大学師生代表団来校訪問交流」(<http://news.gdufe.edu.cn/1087>)。

すでに広東財経大学からは2015年10月28日より1ヶ月にわたって梁燕碧氏が東京長期滞在による交流推進を行い、2016年9月11日には久恒啓一副学長（当時）を団長とする教員学生の訪問団が広東財経大学をおとずれた²。その間には多摩大学広東財経大学交換留学生プロジェクトデスクが設置され、毎年双方より交換留学を行って交流を深めている。そこで今回は本学経営情報学部の水盛涼一准教授および学生12名（男子9名、女子3名）が2019年3月11日と12日の両日にわたって広東財経大学を訪問し、相互交流を更に深めたのであった³。

3. 研修の具体的内容

今次研修は基本的にわれわれが広東財経大学の各種行事に参加し交流する形式を採用した。広東財経大学の各種行事で、学生は研究発表や文化交流を通して日本国内とは異なる新鮮な相手側の反応を受けつつ多角的な視点の獲得につとめた。なお研修の途次には上記のほか日系現地企業や中国の情報技術先端企業そしてサービスエンターテインメント事業の拠点を訪問し質疑応答を行い、また中国の購買動向や電子決済の実態について視察した。また全体を通して学習意欲の向上と海外留学への動機付けを並行して推進した。

中国・深圳研修および広東財経大学短期留学プログラム日程表（2019年3月10日～15日：単位は2019年春季学期、事前・事後学習が必要）

月日	午前	午後	夕方
3月10日 (日)	①8:45羽田国際線ターミナル3階出発ロビー Y団体カウンター7番、8番集合 ②CX543便10:45発 香港国際空港15:00着	香港空港「機場站」から「機場快線」に乗車し「九龍站」へ、徒歩で「高鉄西九龍總站」へ向かい「廣深港高速鐵路（新幹線）」で深圳市の「深圳北站」へ（合計90分）	宿泊：深圳維也納國際酒店深圳北站店（英語名はVienna International Hotel Shenzhen North Station Branch）新幹線駅「深圳北站」から徒歩13分
	機内食		ホテル隣のビルの小肥羊
3月11日 (月)	8:00ホテルロビーで集合、深圳北駅へ。10:10に高速鉄道G6508へ乗車し、10:57に広東南駅到着。地下鉄2・8号線を乗り継ぎ新港東駅から広東財経大学へ（合計120分ほど）	13:00～14:00、昼食。15:00～17:00、広東財経大学の外国語学院の932活動室で日中大学生交流	17:30～、校内の博雅軒で歓迎の晩餐会。宿泊：大学橋内の麗楓酒店の広州琶洲店（英語名はLavande Hotel, Pazhou Branch）
	朝食（周囲の軽食店）	昼食（学食）	夕食（パーティー）
3月12日 (火)	朝食後、8:30出発 10:00～11:00 企業訪問（広東汽車トヨタの工場訪問。バスチャーター、表示時間は工場内活動時間）	14:00～16:30、広東財経大学の第2学生食堂の学生活動センターで2019中日文化節へ参加。（文化節の時間は13:00-18:00）	大学を17:30に出発、広東南駅より19:00に高速鉄道G6541へ乗車し、19:41に「深圳北站」到着。初日と同じホテルへ。
	朝食（学食）	昼食（学食）	夕食（広東南駅）
3月13日 (水)	朝食後、8:30出発 パートル先生と合流。 10:00～12:00、深圳市内の華強北地区見学	IT新7姉妹のひとつTencentを見学（深圳市南山区海天二路33号 騰訊濱海大廈）地下鉄2号線の「華強北站」から西方へ35分ほどで最寄り「後海站」着。	グローバルスタディーズ学部卒業生でリクルート現地法人勤務 高木篤氏と会食（2013年3月卒、Recruit Global Family勤務）
	朝食（周囲の軽食店）	華強北の食堂	夕食（パーティー）
3月14日 (木)	朝食後、8:00出発 香港空港ちかくの香港迪士尼（ディズニー）へ（90分ほど） 17:00ごろ帰途につき19:00ごろの深圳のホテル到着を目指す		
	朝食（学食）	昼食（広州市内レストラン）	夕食（広州市内レストラン）
3月15日 (金)	8:00ホテル出発	香港国際空港CX542便16:20発 羽田国際空港21:15着・現地解散	

とはいえ、研修参加学生の中国理解度は一定ではない。そこで2018年12月12日の事前学習において学生を各班3名の合計4班12名に編成して連帯感醸成を図ったほか、対象地域への問題関心を刺激し理解度を増進するため、附属図書館で藤岡淳一『「ハードウェアのシリコンバレー深圳」に学ぶ』（インプレスR&D、2017年11月）をはじめとした蔵書から抽籤により班ごとの課題図書を定め各人にレポート分担執筆を求めた。またこの時点で各班に対し、「深圳毎日記録簿」を配布した上、①多摩地域と多摩大学30年および国際交流、②訪日外国人の国籍と数量推移、③日本アニメコンテンツ30年史、④世界と日本・中国の遊園地ビジネスの

³ 「広東財経大学新聞網」、2019年3月13日付「2019広東財経大学—多摩大学“中日大学生”交流活動挙行」(<http://news.gdufe.edu.cn/16983>)。なお本研修について多摩大学においても2019年4月24日開催の平成31年度第1回教授会にて報告を行い、同会『資料』423頁より442頁（全450頁）に詳細を示している。

歴史と未来予測、以上の4点の題目を提示し、広東財經大学での学生交流発表の内容を定めた。

1日目：3月10日（日） 東京羽田国際空港 → 香港国際空港 → 深圳北駅 飛行機搭乗時間が午前10時45分であるため、8時45分のチェックインカウンター付近集合とした。引率者は空港到着後に学生より当座の資金を回収するかたわら（食事や宿泊費について共通財源方式を採用し現地での等分計算の労を省くため）、Wi-Fi機器の賃貸を受け、広東財經大学での日中学生交流にそなえて学生とともに空港内の改造社書店羽田国際空港ターミナル店を訪ねた。ここでは学生6名へ手分けして40種の書籍を重複せずに選定するよう依頼した。

さて、全員が集合した後、予定通り国泰航空（Cathay Pacific）CX543便に搭乗し、現地時間午後3時（日本時間午後4時、以降は現地時間を記載）に香港国際飛行場へ到着した。入国審査を経て荷物を回収し換金を終え一段落したのは午後4時30分である。そして30分ほどの在来線移動ののち、午後5時に九龍駅へ到着した。ここから広深港高速鉄路（日本でいう新幹線）の香港西九龍駅（Hong Kong West Kowloon railway station）まで徒歩で20分ほどがかかる。引率者が新幹線のチケットを購入しているあいだ、学生には付近での購買体験の機会を与えた。なお香港西九龍駅では構内での出入国管理を行っており、香港（香港口岸区 Hong Kong Port Area）からの出境および中国大陸部（内地口岸区 Mainland Port Area）への入境のための書類執筆が求められた。そのため午後6時10分に香港側自動改札へ進入したものの、新幹線出発ロビーに到着したのはやっと6時45分ごろとなり、出発まで間がない状況となった。なお中国内地の通常の駅と異なり、ここ香港西九龍駅の出発ロビーには飲食店が少ない。そのため早期の入場を行った場合には空腹を抱えることになる可能性があり、旅程構成の際には注意する必要がある。

乗車した広深港高速鉄路とは、香港、深圳、広州を結ぶ新幹線専用軌道である。このうち香港西九龍駅から深圳福田駅のあいだは2018年9月23日に開業したばかりの全面地下路線である。目指すホテルは深圳北駅の南西B1出口（西進站口）から見える深圳維也納国際酒店（Vienna International Hotel）の深圳北站店（Shenzhen North Station Branch、所在地は深圳市竜華新区高鉄北站西広場B座）である。そして午後7時35分にホテルへ到着、ホテル附設のレストランである糧好餐点に入店し夕食を求めた。なおその最中にチェックインを行って学生待機の時間削減に努めた。部屋は教員も含め2名単位（女子は3名）とした。これは体調や日程の相互確認を行い、早朝集合を円滑に実施するためである。また以降は宿泊地ごとに各人の部屋番号を共有し（紙媒体の各自携帯電話での撮影および微信群 WeChat Group での配信）、有事の際には教員の部屋を訪ねることを確認した。

2日目：3月11日（月） 大学訪問・歓迎レセプション 早朝6時に起床し、同部屋学生とともに券売窓口を訪ねる。現在は多くの国民が切符の電子的取得を行っているといい、窓口には人影はまばらであった。切符は一括購入上限が最大10枚と定められ、必ず公的な身分証明書が必要となる。購買時にはパスポート番号およびアルファベット姓名が記録され、切符上には一部伏字となるものの番号氏名が打刻される。そのため合計13名の切符購買には時間がかかり、30分を要した。なお駅構内入場の際には切符・パスポート写真および番号・当人の認証が行われ（これを「票証人一致」という）、不一致の場合には入場できない（「票証人不符」という）。

広州南駅に到着したのは10時22分、ここから広州地下鉄2号線および8号線に乗りし新

港東駅（Xingang East station）で下車した。ここでは、広東財經大学外国語学院（School of Foreign Studies）日語語言文学系（Department of Japanese Language and Literature、以下日語系と称す）教員の梁燕碧氏、以前に多摩大学へ1年間の交換留学した経験を持つ鄧穎琳氏の迎接を受けた。その後、午後1時45分には将来的に正門が設置されるという広東財經大学東北角の門で集合写真を撮影、ホテルへ向かった。なおホテルは大学構内の麗楓酒店（Lavande Hotel）広州琶洲店（Pazhou Branch、所在地は海珠区赤沙路21号）である。到着はちょうど午後2時で、ここでは同じく多摩大学交換留学生であった李俊磊氏、鍾保誼氏と親交を深めることができた。



ついで午後3時からは院部弁公楼（Faculty Office Building）9階の外国語学院にある932活動室で大学生交流会が開催された。司会は日語系主任（学科長にあたる）の呉楓氏が勤めた。教員参加者は外国語学院執行部から趙明氏（共産党委員会書記）・張丹氏（同副書記）・杜萍氏（副院長）、また日語系から梁燕碧氏・劉向楠氏・黄彦氏・澤崎真希氏で、日語系所属の学生参加者も42名を数えた。そして教員紹介、趙明氏の祝辞、引率者水盛の答辞、多摩大学学生発表、日中学生交流の順で進行した。なお学生は午後3時30分より第1班「多摩地方」（遠藤・渡邊・渡邊）、第2班「訪日游客」（佐保・中林・吉澤）、第3班「秋葉原動漫文化」（中島・松永・馬場）、第4班「主題公園」（上岡・平山・伊東）が発表、そして午後4時50分から午後5時30分にかけて日中の学生が班ごとに円陣を組み個別交流を行った。その後、日中学生はともに夕食をとる。そしてさらなるエクスカッション（体験型見学会）として梁燕碧氏および広東側学生15名より新都心開発地域探訪を提案いただいた。そこで有志学生一同は午後8時に広東財經大学を出発、午後8時45分ごろに珠江新城駅（Zhujiang New Town station）で下車し、周辺の見学を行った。この地域は付近の花城大道（Huacheng Avenue）を中心として広州図書館や広東省博物館のほか広州農村商業銀行（Guangzhou Rural Commercial Bank）の珠江新城支行など企業の拠点をも擁する新都心として整備が進み高層ビルが林立している。

学生の案内により、午後9時ごろには「喜茶 HEY TEA」海印都薈城店（天河区珠江西路



89号B1階B13号)に入った。喜茶は2012年5月12日に聶雲宸(1991年出生)が広東省江門市蓬江区九中街(第九中学付近を指す呼称)で創業した新進気鋭の喫茶店であり、成立6年にして5億元の融資を受け、2018年末の時点で163店を数える巨大チェーンに成長している⁴。ここでは広東側学生の提案で「芝芝芒芒」(Mango Cheezo)や「芝芝莓莓」(Strawberry Cheezo)、「輕芝士綠妍」(Cheezo Green Tea)などを注文した。なお午後10時ごろには全高600メートルにおよぶ広州の電波塔「広州塔」(Canton Tower)を背景に集合写真を撮影し帰途についた。

3日目：3月12日(火) トヨタ工場見学・文化交流節 午前8時30分にはホテルロビーに集合し、広東財經大学の呉明宇氏の協力のもと広汽トヨタの工場を目指した。なお広汽トヨタは2004年9月1日に設立された広州汽車集团有限公司(Guangzhou Automobile Group Co., Ltd.)とトヨタ自動車株式会社(Toyota Motor Corporation)との50:50配分の合弁会社である。そして広州市街南方に敷地面積282万平方メートル、床面積74万平方メートルの巨大工場を持ち、この工場だけで1万名を越える社員が勤務している。工場は市街地から遠く離れており、マイクロバスをチャーターしての参観となった(なおもし公共交通機関での移動を行う場合には地下鉄4号線の蕉門駅(Jiaomen station)から徒歩で向かうことになったろう)。到着は1時間ほど後の9時30分ごろであった。正門で総経理弁公室(Presidential Office)渉外広報科(Corporate Public Relations Department)の彭婷氏の迎接を受けたのち、総装車間(Assembly Workshop、組み立て工場)の参観を行った。工場内の「紐スイッチ」や「行灯」は日本と同様に導入されており、部品選び、組み立てから試運転に至るまでの精緻な総工程を丁寧に紹介され、記念写真を撮影したうえで、10時30分ごろにトヨタ工場を辞去した。

ついで前日の日語系教員の協議により、沙湾故鎮のレストラン大餅營(広州市番禺区沙湾鎮北村承貴巷3号)を目指す。現地到着は11時30分ごろであった。沙湾鎮は南宋(1127年～1279年)の時代に開かれたという古村落で、2017年6月に国家4A級旅游景区へ認定されている。その中心は南宋の徳祐元年(1275年)に建設されたという何氏の大宗祠「留耕堂」である。レストラン大餅營自身も何氏に関連する文物保護単位「懷徳堂」に入居しており、「嶺南文化」のただ中での食事を楽しむことができた。なお日語系主任の呉楓氏は昨日の時点で現地の甘味である姜撞奶(Ginger Milk Pudding)を推薦しており、ここで賞味する機会を得た。



広東財經大学に帰着したのは午後2時ごろであった。ここで第2食堂最上階の学生活動中心で開催されている「2019中日文化節」へ向かった。本節の主催は外国語学院共產主義青年団委員会学生会および桜鳴社、共催は広東財經大学流觴亭詩社(2014年11月設立の全国的學生

⁴ 「零售老板内参」2019年1月24日付、楊亞飛「喜茶首次披露核心數據——門店達163家、小程序訂單超35%」。

団体)の海珠班(ほか三水・筹の合計3部)である。その活動内容は、若干の露店を設置して中国文化と日本文化の展示および遊戯交流を行うものであった。なお露店では、カルタ、ヨーヨー、風船釣り、剣玉、漢服着付け、浴衣着付け、達磨落とし、日本文化クイズ、中国文化クイズ、茶道体験、中国古詩飛花令、投壺、琴といった体験を行うことができた。ほか日中学生の一部は歌唱を通して親睦を深めた。そして午後5時15分に会場を後にした。そして二度の乗り換えを経て6時30分には広州南駅に辿り着いた。新幹線は午後7時4分に出発し、深圳北駅へ7時39分に到着、午後8時10分には維也納酒店へ到着、ここでバートル教授と合流した。



4日目：3月13日(水) 華強北参観・テンセント見学 前日に引き続き午前8時30分にロビーへ集合、連絡通路を使い深圳北駅の北東口(東進站口)へ向かい、深圳地下鉄4号線に乗車し市民中心駅(Civic Center station)を目指し2号線に乗り換え、9時45分ごろに華強北駅(Huaqiang North station)に至り、華強北一帯の見学を行った。なお昼食の場所は喜薈(福田区深南中路2038号愛華工模具車間)である。そして午後1時45分には出発し、華強北駅から地下鉄2号線で世界之窗駅、そこで地下鉄1号線に乗り換え深大駅(Shenzhen University station)から徒歩で騰訊科技股份有限公司(Tencent Technology Co., Ltd.)の入居する騰訊大厦(深圳市南山区高新科技园中区1路)を目指す。なお騰訊大厦訪問は午後3時の予約を行っており、李峰氏および薛佳智氏にご案内をいただいた。

夕食はホテル併設の五福香でリクルート海外事業会社RGF(Recruit Global Family、艾傑飛)人力資源有限公司広州分公司(広州市天河区林和西路161号中泰国際広場A塔1309室)に勤務の高木篤氏とディナーミーティングを行うこととなった。高木氏には中国勤務の注意点や華南華北の飲食文化や風土の違い、今後の中国経済の展望や電子決済の将来など諸点にわたってインタビューを行うことができた。



5日目：3月14日（木） エンターテインメント企業の見学 前日よりやや早い午前7時15分に集合し、深圳北駅へ向かう。午前8時5分出発の新幹線に乗り香港西九龍駅を目指すためである。中国大陸部への入境にくらべ出境での事務手続きは比較的短時間で、15分ほどで構外に出ることができた。ついで地下鉄東涌線（Tung Chung line）の九龍駅を目指す。午前9時ごろ、初日と異なり学生各個人での切符購買を求めた。なお目的地の迪士尼駅(Disneyland Resort Station)には9時40分に到着した。9時45分には券売窓口に着、引率者が後列から見守るなか、学生それぞれが切符購買を行う。なお上海ディズニーランドと異なり香港ディズニーランドでは身分証の提示を必要としなかった。また園内では香港ドル人民元が通用するものの、レートは同価値単一で、2019年3月現在では人民元支払いの場合に顧客側不利となるようであった。なお園内の市鎮会堂（City Hall）では日本円の両替やパンフレット入手ができる。ただしパンフレットは繁体字版、簡体字版、英語版は存在するものの、日本語版在庫は品切れであった。そして集合写真を撮影したあとは園内で班ごとの自由行動とすることにした。万一の事件発生時に班員が協力して引率者に連絡し事件解決へ行動するためである。



全体を振り返れば、事前に日本国内で一部指摘のあった「キャストに笑顔がない」ことはなく、また「ゴミがよく落ちている」こともなかった。学生の持ち物紛失時には各所を訪ねたが、それぞれの場所での対応は親切丁寧であり大きな問題は感じなかった。なお訪問者について言えば、香港市内と異なり日本語を聞く機会が多く、従業員も日本人対応に習熟しており、日本人訪問者数を窺うことができる。ほかヒジャブ（Hijab）の上にディズニーカチューシャを着用する東南アジア系と思われる訪問客も多く見られた。なお学生の意見としては、東京の同業に比べればアトラクションの待ち時間が短く、そして東京のように写真撮影中に従業員が写真撮影協力を申し出るようなことはなかったという。後者に関してはアメリカの同系列遊園地も香港と同様のもので、列車の白線案内といった日本特有の勤仕精神の表れとも思える。なお日中は雨模様であったためか来訪客は少なめに感じたが、夜間パレードの時間には多くの来訪客が美国小鎮大街（Main Street, U.S.A.）へ集まっていた。そして午後5時20分には園を離れ九龍へ向かう。午後6時10分には地下鉄駅に着、30分には新幹線駅である香港西九龍駅に着した。ここで学生1名のパスポート紛失が判明、引率者は一部学生とともに対応を行った。

6日目：3月15日（金） 帰国 やはり午前6時30分に起床し、券売所へ切符購買に向かった。6時50分時点ですでに5名ほどが列を作っている。12名全員の購買を終えたのは7時15分であった。早速に微信グループチャットで午前8時55分の出発時間を共有し、当初の予定である午前8時30分ではなく20分にロビーへ集合するように伝えた。新幹線に乗りしたところ、午前8時56分の地下軌道部分で既に時速181キロメートルを記録していた（到着は9時14分）。9時55分には大陸部出境・香港入境を終え、新幹線駅の構外に着、さらに空港を

目指した。なお時間には余裕もあったため、先行学生の希望により、第2ターミナルの出国審査前一般商業区域にある体験型施設「童夢城通識学園」(Dream Come True Education Park)の「出前一丁工作坊」(Demae Iccho Factory)および「我的合味道工作坊」(My Cup Noodles Factory)を訪問したが、2018年末に閉店したとのことであった。東京上空に到着したのは午後9時ごろ、荷物引き取りを終え最後の集合写真を撮影したのは午後9時45分であった。

4. 研修の成果と課題

最後に今次研修の成果と課題を述べたいと思う。なにより今次は多くの収穫があった。第一に、多くの参加学生にとって初めての中国、初めての海外であったため、外国という異文化に触れる又と無い機会となった事である。たとえば現在もなお中国では多くの場所で飲料を「氷的」(冷たいもの)と頼まねば常温のものを給仕される。そこで中国では腹痛に備え低温の飲料は比較的によまれないことを説くと、学生も納得した表情を見せた。また滞在先の深圳北部は都市中心部からは少し離れた場所であった。そのため都市中心部と郊外で雰囲気には差があることが確認できた。ほかにもトイレでの落とし紙の処理、水道水の飲用性、バイクのような見立ての電動自転車の存在など、学生の驚きは大きく、理解した時の感動も深かったように感じられた。第二に、海外の学生の姿を間近に確認できたことである。今次訪問先の広東財経大学外国語学院は日本語を解する学生も多く、日本側学生が中国側学生と深い内容の対話を行うことができた。また、引率教員としては中国企業を参観し得たのは大きな収穫であった。バトル教授は日程のうち2日のみの同行であったが、合流前に北京を訪問している。これは『紀要』本号にも掲載される共同研究の進展に大きく資するものとなった。記して感謝申し上げたい。

ただし、些少ながら課題もみられた。第一に、訪問学生はおおむね熱心であったものの、特に熱心で次日に備えて早めの就寝を行う者とそうでない者とに分かれてしまったことである。第二に、良好な学習の再構成ができなかったことである。今次研修では夕食時に座談形式で情報交換を行い、毎日記録簿へ記載していくのみで、順序だった反省や展望を行うことがなかった。今後は班活動をさらに活かし、夕食後に各々の見聞を発表し質問するといった学習方法を取り入れるべく検討を行う予定である。

なお、2017年9月の上海研修では、参加者の一人がアルミ缶を引率者に差し出し「これを捨ててくれませんか」と問うた。悪質な者ならば廃棄物を無断で周囲に投棄するであろう。この学生は中国での廃棄分別方法を知るため、わざわざ引率者に問うたのである。そこで引率者は「このゴミを捨ててくれませんか」をあらわす中国語文を教え学生からホテルボーイへ問い合わせを行うよう指導し現地体験を深めさせた。本件の質問は善意から出た行動とはいえ、引率者を有給添乗員とみなすものともいえる。また今次はパスポート紛失が発生した。紛失発生を阻止する手段には学生全員のパスポートを引率者が回収管理すればよい。しかしパスポート回収は学生の引率者への依存を高め自立的思考を阻害するだろう。あくまで個人主体の研修であり諸事自己責任を明確にせねば学生の自立心育成に有害なのではないかと懸念する。

とはいえ、これらの課題は乗り越えることができ、また得られた成果は広く深い。帰国後一週間ほどして同行学生と接触する機会を得たが、みな一様に成長が見て取れた。今後も各地へ学生を引率すべく思いを新たにしたい次第である。